

学校だより



平成
20
年度

3
月

京都市立桃陽総合支援学校



足踏み



胴作り



弓構え



打ち興し



引き分け



会 (かい)



離れ



残身 (心)

「残身」

学校長 尾崎 泰敏

学校だよりも三月号となりました。今年度も本校教育になにかとご協力いただき、ありがとうございました。

最終号でいきなりの写真、なんだと思われたと思います。弓道には「弓道八節」という言葉があります。弓を射る一連の動作をポイントポイントで分けたものです。学習をする上で共通することがありますので紹介させていただきますました。

弓を射るのはもちろん矢を的に当てる事を目的にしています。ですからこの一連の動作は的に当たる確立をより高くするためにできたものです。武道ではこれを型と呼んでいます。目的を達成するための最も精選された方法と

考えてください。

話は少しずれますが弓は「射る」といいます。「うつ」とは言いません。「撃つ」と漢字で書くとよくわかると思います。ちなみに将棋は「指す」といいます。碁は「打つ」と言います。テレビなどでもよく間違っって使われます。とても気になるのです。

第一節「足踏み」は脚を開き、土台をつくるための動作です。広すぎても狭すぎても支障があります。第二節「胴作り」開いた下半身の上に上半身がしっかり乗っているかを確かめます。重心が真っ直ぐ乗っているかどうかということです。正しい姿勢だと袴の腰板が腰にぴったり付きます。姿勢が悪いと隙間が出来ます。だから今でも袴をはいてするのは、ジャージではこの感覚がなかなか分

りません。第三節「弓構え」実際に矢を弦につがえ、射る準備をします。矢と弦は「筈(はず)」という溝のついた道具でつながっています。

「ゝのはずだ」というのはこの筈からきています。ぴったり合うと言う意味でしょう。実物の筈を見たことのある人は少ないでしょう。言葉は生活に残っています。この時筈は欠けていないか弦は切れかけていないかなどの最終チェックをします。「打ち興し」「引き分け」「合点」いずれも矢を射るための準備動作ですが、これも左右のバランスを保つことを大事にしています。弓は左手で押し、右手で引きながら弓と弦を広げていきます。弓の強さにもよりますが普通の成人男子では十八〜二十キログラムの力がかかります。多くの

人は左右の腕の力が違いますのでバランスを崩すと弓の上下、左右のバランスが保てなくなります。「会」は準備の最終段階ですがぴったりに収まる感じは前の段階の善し悪しで決まります。うまく収まると弓から受ける力は全く感じなくなります。とても不思議な感じがします。弓を引く過程では力が必要だったのに最も弓をしならせた状態にある時が最も力を感じないのです。過程はしんどいのですが結果はとても楽な状態という感じです。いよいよ「離れ」になります。第七節です。弓は「かけ」という漢字では革偏に葉と書く三つ指（四つ指、五つ指のものもある）で手袋状のものをはめて引きます。親指の付け根に堅い出っ張りができていてここに弦を引っかけます。

ですから矢を射る瞬間は「放す」ではなく「離れ」なのです。会に入ると見た目には静止状態ですが内なる力としては弓を押し、弦を引き続けています。両方の力が飽和点に達し、糸が切れるように離れた時最もよい「離れ」になります。よい「離れ」は葉の先に溜まっている露が徐々に大きくなって自然に落ちる様に例えられます。分かっているようなことなかなか出来ないことなのです。人間はどうしても放す意識が強く、加えて的に当てたいとねらいを付けていますから結果が欲しくなります。機が熟さないのに放してしまうのを「早気（はやけ）」といいます。反対に機は熟しているのに離れないのを「もたれ」といいます。いずれもよくないのですが「もたれ」の方が改善し

やすく、弓道をやり始めた時期に「もたれ」だった人は大成すると言われています。

第八節「残身」矢を放った後の形の事です。写真は高段者の人なので「離れ」と「残身」がほとんど変わりません。未熟な人ほど前に仰け反ったり、後ろに反ったりバランスが崩れてしまいます。また、残身は「残心」とも書きます。矢を射った後の心の状態を言います。「おしい」とか「しまった」とか「どんなもんだ」とか思わないことです。今の射を思い返し、静かに反省し、次の射への心の準備をする時になります。

弓道八節を踏まえながら自然のままに矢が射れた時は、無我の境地になります。周りの音も聞こえず、景色も見えず、的と射居（立っている場所）の距離（約二十七メートル）も感じなくなります。「弓禅一体」という言葉がありますが座禅をして達する境地と似ていると言うことだと思っています。

分かったような事を書きましたが何千本と行つた「射」の中でそんな気持ちを感ぜられたと思うのは二射だけです。しかしその時のなんともいえない充実感は今も残っています。

的に当てたいがなかなか的に当たらないし、的中率が上がらない時、多くの場合、師範の教えを請います。よい師範は弓道八節に従ってつまづきの原因とその改善策を教えてください。当たらない原因が普段の自分の姿勢や道具の手入れの仕方にあることもあります。

もっと上手になりたいと思っている時に伸び悩むこともあります。

んな時よい師範は自分の射を自分で反省する方法をおしえてくれます。それが「残身」を自分で評価することです。自分で自分を見る目を育てると言うことでしょうか。

色々なことを習得していく過程は共通する事がたくさんあります。学習も同じです。弓道の紹介をさせていただいたことで子どもたちをどう導いていけばいいのか参考にしたいだけ幸いです。

職 場 体 験

本校 中学部一、二年
二月四日、五日と二日間にわたり、職場体験を実施しました。今回初めて参加する生徒は少し不安を抱いていましたが、事前の取り組みでは「事業所調べ」、「自分の希望」を合わせて職場を

選びました。職場との事前打ち合わせではそれぞれに勤務内容、勤務時間、服装などを確認しました。

今回は図書館・スーパー・飲食店・老人ホームでの実習です。当日は、本の整理、貸し出し図書の仕事、商品の陳列、バック詰め、お客さんの接待、お年寄りとの交流をはかり、無事終了しま



した。仕事中の表情は真剣そのもの、日ごろの学校生活とはまた違った側面を見ることができました。学習を終えた生徒は「仕事のつらさがよくわかった。」「人と話すこと、人のために働くこと、つて楽しい」と感想を述べてくれました。この貴重な体験が将来自分の進路を考えるときに役立ってくれることを期待しています。

自分の進路に向かって

本校 中学部三年

三年生は今、受験シーズン真っ盛り、授業中はもちろん課外の勉強会でも学習に最後の追い込みに入っています。入試問題に挑戦したり、わからないところを先生に質問したりと気合が入っています。すでに進路の決まった生徒もいますが次へのステップ

の準備期間でもありません。それぞれに体調管理に気をつけながら自分の目標に向かってがんばってほしいと思います。

時の経つのも忘れ

府立医大分

暖かい日が続いたり、がちらついたり、二四温を繰り返しながら春はそこまで来ているようです。

三月に、卒業を迎える児童・生徒がいます。みんなで共にお祝いしたいと思います。

二月には、オルゴールコンサートがありました。オルゴールの奏で豊かで美しい音色をとりとしながら聞きました。中でも珍しかったのは、籠に入った小のオルゴールや、からり人形オルゴールで音楽を奏でながらシンボン玉を実際に吹く

形・・・みんな目をこらして見ていました。他にもコインを入れると人形が踊り出すステーションオルゴールもありました。最後にポーターオルゴールに合わせて「ドレミの歌」を歌いました。

コンサートを聞いた後には、ヨーロッパの玩具やオルゴールに触れて遊ぶ時間もありました。木の温もりを感じながら、みんな時間の経つのも忘れて楽しみました。

今後このような体験ができる場を持ちたいと思います。

この一年間、色々とご協力ありがとうございました。残り少ない日々となりましたが、一日一日を有意義に過ごしたいと思います。

授 業 参 観

本校小学部

二月二十五日に今年度最後の授業参観が行われました。一・二・三年のクラスは図工でひな祭りのお雛さんを作りました。明るい柔らかな色で染めた和紙をちぎって、みずのりをひたし、お雛さんの人形にぺたぺたと根気よく張りました。顔を残し、かわいい着物を着せることができました。この時間はここまでですが、次回は顔を作ります。できあがりがあると楽しみです。

四・五・六年のクラスは理科で「チリメンモンスターをさがせ」という授業でした。お店で売っている袋に入っているチリメンジャコをルーペや顕微鏡でよく観察すると、今まで気づかない小さな魚類が発見で

きました。タツノオコシゴミみたいなものや、たこ、かにのようなものなどいろいろな形のもので



見つけられ、見つけたチリメンをモニターに見立て、独自に名前をつけて楽しみながら観察をしていました。保護者

の方も子どもたちと一緒にいろいろな形の魚を見つけては子どもたちと会話を弾ませられました。また、こ陽病院のお医者さん、看護師さんが参観にしてください、子どもの観察に興味をもつておられました。保護者の皆様には参観後全体懇談会・学級懇談にも参加していただきありがとうございます。

門 出 を 祝 っ

国立病院分

現在、小学部三名、学部一名の計四名が分の体調に合わせて校しています。

先日、小学生と看護習生のみなさんと、卒業する中学部三年生の達を送るための準備しました。みんなでマデアを出し合って「士へ向かって」をテーマ

かな日を迎えるN君の
門出を祝ってくれるこ
とと思います。

入院当初、自分の事で、
精一杯だった小学生が、
そのようなやさしい気
持ちや発想を持って取
り組めたことに拍手を
送りたいと思いました。
外泊を楽しみに、それ
ぞれ自分の体調にあわ
せて入院生活を送って
欲しいと願っています。

京都医療センターの
旧病棟の工事が二月末
から始まりました。



オルゴールコンサート

京大病院分教室

二月四日に、今年度二
回目の茶話会が、学校長、
PTA会長も交えてお
こなわれました。

保護者の方々は、子ど
もの病気や入院生活へ
の不安もありますが、退
院して本来校に戻る時
の受け入れ体制への不
安が大きく、どのように
伝えていけば良いかな
どが活発に話されまし
た。

二月十日には、オルゴ
ールコンサートがおこ
なわれました。

手でハンドルを回し
て、穴の空いた長い紙を
機械に通して鳴らすオ
ルゴールや、金属製で突
起があるLP版程の大
きさのディスクを入れ
て鳴らすもの、少女がシ
ヤボン玉を吹くもの、コ
インを入れると人形か
踊り出すものなど、多く
のオルゴールを観賞さ

せていただきました。そ
の後、手で回すオルゴ
ールを実際に手で回して
鳴らしてみたり、ゆする
と音が鳴る不思議なボ



ールなどの玩具オル
ールに触れて聴くこ
もでき、とても楽しい
ときを過ごすこと
できました。

焼き芋と野

中学部 訪問

まだ寒い二月の戒
一日、小学部のTさ
中学部のHさんが本
へのスクーリングで
外活動を行いました
場所は見晴らしの
いプールサイド、内容
焼き芋と野点です。

焼き芋は二人が「日
痛い！」と奮闘しなが
かまどに新聞紙や杜
枝で火を焚くところ
ら始まりました。

かまどの上には石
入ったおかまを置き
して、そこに洗ったさ
まいもやジャガイモ
入れ「石焼き芋」作り
挑戦。

かまどの下の炎の
には、濡らした新聞紙



色！。ゆげがホカホカ立ち上ります。歓声を上げながらどんどん開けていきました。石焼き芋も大成功です。
陶芸で作ったお皿にのせて、お抹茶とともに頂いたおいしいものが格

別だったのは、言うまでもありません。寒さなんて吹き飛ばす、素敵なひと時でした。

治療が続く中

小学部 訪問教育

音楽が大好きな小学一年生のFさんはキーボードでいろいろな曲を演奏しています。音読も得意で、お気に入り“さかなやのおっちゃん”です。その様子を時々庭の小鳥たちが応援してくれています。個室でがんばっている人もいます。訪問の許可が出たときには教科の学習の後に、付き添いのお父さんやお母さんも交えてブロックゲームをし、笑顔を見せてくれました。つらい治療が続く中、しんどさが少しでも安らげば、と願っています。

消しゴムはんこ作り

二赤分教室

自立活動で、消しゴムはんこ作りをすることになりました。自分がはんこにしたいものや自分らしさが表現できる



図案を考えました。カト集を参考にしながらアレンジをしたり大きさを変えたりして図案は決定。トレッシングパーを使って消しゴムに下絵を写し取りよいよ作り始めます。きめの消しゴムを、小さな大きさに切り分けます。あとは、カッターや彫刻刀を使って彫り進みます。彫りながらも会話がはずみ道具がよくわかりま一通り彫り終えたらりかすを取り除いて成です。

はんこにつけるイクの色を選んで押していきます。赤・黄・青・水色・金・ピンクの中から図案にふさわしい色を選びます。押し置を工夫するとそれだけでストーリーが生まれます。背景を付け足して自分らしき満載のストーリーの完成です

